

情報はチカラになる。

BOOK

インフォメーション



男女の間のさまざまな課題に気づき、
私らしい人生を送るための書籍をご紹介します

平成 29(2017) 3月

Vol.17

メディアとジェンダー

メディアが描く男女のイメージ

新聞、テレビ、ラジオ、映画、雑誌——。マスコミュニケーション・ツールとしての「メディア」は、私たちに日々さまざまな情報を提供してくれます。その表現をジェンダーの視点で眺めてみると、男女の描かれ方に違いがあることに気がつくでしょう。たとえば、子育てに関する広告。女性が子どもとセットで描かれる場合が少なくありません。これでは男性は参加しにくいでしょう。また、募集チラシに男性ばかりの写真が載っていたら女性は参加しにくいでしょう。このように、表現が男女に偏りが生じさせてしまう場合があります。

洗剤のCMを例にしてみると、洗濯などの家事をしているのは女性であることが少なくありません。こうした表現は「男は仕事、女は家庭」という性別役割を固定化しています。職場を表現する際に男性がリーダーで女性が部下などの補助的立場として描くケースも、男女が対等な関係でないことを自ずと固定化しています。伝えたい情報の内容と関係のない水着の女性を、人の気を引くた

めだけの「アイキャッチ」として起用する場合も、女性の性を商品化して発信することによって、見られる性・受け身の性としての女性像を固定化してしまいかねないのです。

私たちへの影響とメディアリテラシー

このように、日々さまざまな媒体から送り出される大量の情報は、私たちの意識形成に大きな影響を与えます。幼い頃からこうした情報を受け取り続けられれば、固定的な性別役割分担意識や男性優位の考え方を当たり前のこととして受け止められるようになり、差別が助長されていくのです。

こうした問題を解決するためには、情報を受け取る私たちがジェンダーの視点に敏感に、メディアが伝える情報を見極め、読み解き、理解する力(メディアリテラシー)を身につける必要があります。時に自らが発信者になることも大切です。そうすることでメディアは公正に機能するようになると思います。

(参考) 内閣府「男女共同参画の視点からの公的広報の手引き」

【役立つ3冊をご紹介します】

※すくらむ21で読めます&借りられます。



メディアとジェンダーの関係を理解する

『メディアリテラシーとジェンダー —構成された情報とつくられる性のイメージ』

雑誌、ゲーム、テレビ、新聞などを批判的に読み解きながら、メディアが発信する男女の性的イメージが「構成されたもの」に過ぎないことへの認識を促しています。女性誌が、女性の思考を停止させたり「痩せ願望」を再生産したりしているとしたならば……メディアリテラシー教育の重要性を実感する一冊です。

著：諸橋泰樹
出版：現代書館、2009年



SNSのない時代に思いを伝える

『ガール・ジン「フェミニズムする」 少女たちの参加型メディア』

90年代に流行した女性による手作り小冊子「ガール・ジン」。作らずにはいられなかった彼女たちの熱き思いとは——。歴史的経緯やフェミニズムとの関連、社会的意義に触れられる一冊。個人的な思いを発信し、賛同者が増え、集団でのアクションと化し、社会化される。今の時代でもジンの可能性は無限大ですね。

著：アリスン・ピーブマイヤー／
野中モモ(訳)
出版：太田出版、2011年



女性が選ぶ女性映画を観るなら

『女性映画がおもしろい』(2015年版)

女性が選んだ女性監督作品映画は、男性が選んだものとは異なります。その違いこそを敏感に読み取りながら作品を堪能していただきたい！2015年度版は、2014年公開の国内外の女性監督作品を女性映画人たちが解説。男性監督作品も紹介・評論しています。

著：小藤田千栄子他
出版：パド・ウィメンズ・オフィス、2015年

すくらむ 21
館長推薦!

絵本の紹介 生きることと学ぶこと

知ってる?

「ぐでたま哲学」1~3

最近ではさまざまな情報手段があり、情報源があり、情報がありすぎてついていけません。たくさんのメディアから流れてくる情報の中にはフェイクもあり、ますます自分で情報の選択と真偽の程を見極めなくてはなりません。24時間情報の渦の中に巻き込まれているといっても過言ではありません。しかし、情報の渦の中にさらされ緊張を強いられることはストレスがたまることです。情報が気になり、ストレスがたまると、夜も眠れません。目が爛々としてきます。

そんな時、この本に出会いました。「ぐでたま哲学」です。人気の本なのだそう。ご存知でしたか。今、3巻まで出版されています。性別も年齢も不詳な、ゆるキャラ的な卵の黄身が、さまざまな格言をちょっともじって呟いている本です。ゆる〜い頑張らない迷言集となっています。例えばこんなのがあります。

- ・良薬は口に苦し→良心も時に苦し
- ・別れの数だけ出会いがある→恥の数だけネタにされる
- ・日々是好日→日々は口実

迷言の解説もクスッと笑えたり、ん〜と考えたり、アハハと笑ったり、そのときの気持ちによって変わることもあります。私のお気に入りをお二つ紹介します。

「憎まれっ子世にはばかる」⇒「憎まれっ子世にはばかれる」
夢を持ったら「現実はそんなに甘くない」といわれ、熱くなってみれば「オタク」と名づけられ、世の中をナナメに見れば、「ゆとり」っていわれるんでしょ?知ってる。

「下手の考え休むに似たり」⇒「下手の考え、休むに限る」
「頭で考えるな。体を使え」って言われたり、「頭で考えてから行動しろ」って言われたり、社会って理不尽だよね…。

いかがですか。ストレスにさらされた寝る前のひと時、ちょっと「ぐでたま」に付き合ってみませんか。



著者：サンリオ
出版：大和書房

すくらむ 21 1~3月の新入荷書籍 ※すくらむ 21 で読めます&借られます。

幼児の性自認—幼稚園児はどうやって性別に出会うのか— 著者：大滝世津子 出版社：みらい	就職四季報女子版 2018年版 編著：東洋経済新報社 出版社：東洋経済新報社
僕が家庭科教師になったわけ—つまるどころの「生きる力」 著者：小平陽一 出版社：太郎次郎社エディタス	仕事のカタログ (自由国民ガイド版) 出版社：自由国民社
男性養護教諭がいる学校 著者：川又俊則・市川恭平 出版社：かもがわ出版	資格取り方選び方全ガイド 2018年 編著：高橋書店編集部 出版社：高橋書店
ディズニー・プリンセスのゆくえ—白雪姫からマレフィセントまで 著者：本橋哲也 出版社：ナカニシヤ出版	女性白書 2016 一億総活躍社会と女性 編著：日本婦人団体連合会 出版社：ほるぷ出版
女の子は本当にピンクが好きなのか 著者：堀越英美 出版社：Pヴァイン	ルポ 貧困女子 著者：飯島裕子 出版社：岩波書店
たまごちゃん、たびにでる 著者：フランチェスカ・パルディ 絵：アルタン 出版社：イタリア会館出版部	女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学 著者：丸山里美 出版社：世界思想社
次の野球 編著：株式会社横浜 DeNA ベイスターズ 出版社：ポプラ社	失職女子。～私がリストラされてから、生活保護を受給するまで 著者：大和彩 出版社：WAVE 出版
ルポ 父親たちの葛藤 仕事と家庭の両立は夢なのか 著者：おおたとしまさ 出版社：PHP 研究所	最貧困女子 著者：鈴木大介 出版社：幻冬舎

川崎市男女共同参画センター (すくらむ 21)

すくらむ 21

検索

<http://www.scrum21.or.jp/>

〒213-0001 川崎市高津区溝口 2-20-1 電話：044-813-0808 FAX：044-813-0864



携帯はこちらから